

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500107		
法人名	株式会社 やよい会		
事業所名	みどりの郷こんね		
所在地	大分県佐伯市弥生大字床木3番地1		
自己評価作成日	平成29年3月28日	評価結果市町村受理日	平成29年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4490500107-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4490500107-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府番香館1F
訪問調査日	平成29年3月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆっくりとした時間を提供し、一人ひとりの思いを尊重し、地域と共に支援するという理念を掲げ、アットホームで家族の様に接して入居者様の気持ちの寄り添った介護サービスに努めています。入居者様にやりがいや楽しみを持って生活をして頂きたいと、施設でのお仕事をして頂いたり、今までの生活を本人様や家族の方に伺い把握しながら、出来る事、やりたい事などに目を向けたケアに取り組んでいます。施設の職員は年齢は様々ですが家族の様な関係で入居者様がより良い生活が送れる様工夫をしています。また、働きやすい職員同士が意見を出し合っています。施設のある地域には山や田んぼに囲まれているので落ち着いた雰囲気です。年に1回の秋祭りを開催し、地域の方より出し物をして頂くなど祭りにご協力いただいております。また、地域との交流がもてています。施設には季節の木々が沢山植えられた度があります。庭のコンクリートは足に優しいクッション素材です。散歩の際には入居者様と一緒に季節の草花を眺めたり、小さいですが池もあり、流れる水に触れながら四季の変化を感じゆったり楽しい時間を過ごしています。イベント等を通じて入居者様とスタッフが共に楽しみ気分転換を図っています。御家族の方には年に1回無記名でご家族様アンケートを実施したり、3ヶ月に1回入居者様の普段の様子などを職員の手紙と写真にてお知らせしています。また、アルバムを作成し、御家族の方が面会された際に施設でどの様に過ごされているか見て頂いています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広がる農耕地を望む生活環境に在る2ユニットの施設であり、法人(みどりの郷介護事業部)主導の運営基盤の中で、施設としての地域密着型サービスの意義や在り方について、模索・検討を支援に繋ぐ姿勢が伺えます。利用者の笑顔を起点に、楽しい共同生活を送る暮らしの空間づくりを目指し、利用者の個性の尊重と折々の思いの把握、家族の意向の留意を支援の糧に、地域との相互の交流と関係性の向上も視野に、個々に寄り添う援助・安心感の抱ける施設づくりに取り組んでいます。職員相互の情報の共有・周知と、個別目標(介護計画)の意識化を大切に、利用者の日常の暮らしを支えながら、身心の健全保持への暮らしの営みに繋げています。地域密着型施設としての役割りへの探求と実践への営みにおいては、今後の課題と明言しており、地域への“貢献(理念)”への導きを踏まえた活動の広がりにも期待が持たれます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホール内の目の届くところに掲げて職員で共有している。毎月の職員会議では会議が始まる前にスタッフ一同で唱和し、理念を意識しながら入居者様の対応を行っている。意識の統一を図り、日頃より理念に添った介護を目指している	理念<笑顔で楽しい協同生活を送れるよう地域と共に援助します>を基盤に、具体的な3項目の取り組みを掲げています。毎月のカンファレンスと会議にて、検討の機会も持たれています。理念に通じる活動の意義の把握と、実践に努める様子が伺えます。	理念に繋がる取り組みの展開と、更なるチーム支援の向上を目指した年間目標の協議、地域密着型サービスの提供の意義を踏まえた地域のニーズの把握と支援、相互交流における支援体制の拡大(職員資源の活用を含む)に期待が持たれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。地域の清掃活動に参加したり、施設で行われる祭りには地域の皆様へご案内し、参加をいただいたり、地域の方に出し物をして頂いた。全員の入居者様ではないが、住んでいた地域で行われる祭りに行き、知人の方に会い交流が持てている。地域との交流が足りない事があるのでもっと日常的な交流を行える様にする	施設主催のお祭りでは、2年前より地域住民の舞台参加(近隣者の提案による)もあり、相互間交流・関係の構築が図られています。開催の概要は回覧板にて地域にも伝えられています。夏休み学生福祉ボランティアの受け入れにも取り組んでいます。さらに、今後の地域間交流への課題も捉えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症の情報など発信出来ていない。今後の課題である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行っている。施設での行事や日頃の様子を写真を使用して報告している。会議にあたって家族の方に意見や質問をいただき、頂いた意見をもとに家族の方に施設での取り組みなども合わせて報告し、運営にも活かしている	外部出席者(地域有識者・家族代表・地域包括支援センター)へのアンケートを協議に活用しながら、施設報告(利用者の現状や施設の状況)と、相互理解を深めています。地域情報の受信も行われており、相互間の交流と意見交換に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センターの職員の方に参加していただき、情報などをいただいている。会議に欠席した場合は会議録をお届けしている。運営や請求など不明な点など介護保険課などに問い合わせ連携を図っている	公共の各種機関との連携においては、その内容と必要性に即し、電話や訪問での連絡(報告・相談)が行われています。相互の関係づくりへの取り組みの様子が伺えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループ内外の勉強会を通して身体拘束の具体的な行為について理解を深めている。身体拘束をしないケアに努めているが、時間帯や職員のホール内に人数などにより玄関内ドアの施錠を行っている。	内部研修により全職員の周知に努めており、身心の虐待(拘束)を排除するケアの実践に繋がっています。理念への意識づけ、利用者への寄り添いとチーム支援への体制づくり、家族との連携を大切にしています。	個の職員の資質とチーム力の更なる向上への管理者の意向が伺えます。研修内容の共有や、運営推進会議の意識化、ヒヤリハットの捉え方の再確認など、チームケアへの積極的な体制づくりに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についてのグループ内外にて勉強会を行って、どの様な行為が虐待になるのかを把握し業務の当たっている。日頃より言動に注意し、職員一人ひとりが言葉、身体的、心理的などの虐待を行わないという気持ちを持ち日々の介護を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用している入居者様はいない。支援はできていない。今後、勉強する機会は持てるようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約を交わす際には、契約書の内容を説明し、説明後には、疑問点等がなかったか伺って入居者様や家族の方が安心して頂ける様に努めている。契約内容に理解を頂いた上で契約書に署名、捺印をいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回無記名のアンケートを行って意見を頂いている。2ヶ月に1回、運営推進会議の出席のアンケートの際にも意見や質問を伺っている。意見や質問の結果は後日書面にて報告している。玄関に意見箱を設置したり、面会時にも意見や要望を伺っている。	面会時での近況報告や交流と、3ヵ月毎の写真入りお便りの送付により、家族との思いの疎通と意向の把握に努めています。個性の尊重と折々の思いに触れる心得と、支援への姿勢が伺えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議にて業務内容の変更、施設内の必要物品の購入等、職員の意見や要望を聞いている。意見は本社へ伝えて本社より対応してもらっている	法人全体の幹部職員による職員会議(計画・行事予定・方針)を軸に、横断的に各事業所の処遇や運営の向上を図る体制を整えています。職員の提言においても、支持しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務を組む際に休みの希望を取って、なるべく希望が叶えられる様に柔軟な対応をしている。有休も出来る範囲で取れる様にしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の方が講師のグループ内の勉強会に参加したり、研修のお知らせを通して、職員が研修に参加をしえる。資格取得に向けて勤務の調整を行っている。施設内にて勉強会を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内のグループホームと交流会を持ち入居者様や職員と交流を持っている。佐伯市内のグループホーム協議会に加入し、話し合いに参加し、グループホーム通しの交流を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けて、ご本人様や御家族と会い、施設についての説明や、質問、心配な点を伺っている。入所前には施設見学をお願いし、施設について理解していただき、入所に対しての不安が少ない状態で入所して頂ける様にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談を受けると、ご本人様や御家族と直接お会いして出来る範囲で本人様の様子や御家族が困っている事、心配な事などを伺う様にしている。入所前に施設見学に来ていただき関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談があった時には、ご本人様や御家族と直接お会いして話をしている。また、施設に見学に来ていただき、施設や、サービス内容の説明を行っている。ご本人様や御家族様の希望に応じてグループ会社の他種類の施設の説明をさせていただいたり、パンフレットをお渡ししている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の身体状況に応じて施設内での家事を一緒に行い、行って頂いた後にはなによりも感謝の気持ちをお伝えてしている。日々の生活の中で入居者様より教えて頂く事も多く、尊敬の気持ちを常に忘れず日々介護にあつたている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の方に、3ヶ月に1回お手紙に写真を添えて普段の様子を報告している。面会の際には家族の方に普段の様子を報告している。面会時など情報交換を行い、介護の中で迷った際など、家族の方に家での様子、介護の方法などを伺ったり、意見をいただき、それを参考に対応をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期受診の病院の中や、入居者様の住んでいた地域の祭りに行き、その中で地域の知人に会い会話や交流ができた事もあった。数人ではあるが、知人が面会に来設され楽しく会話を行った事もあった。	利用者と家族の思いの尊重と馴染みの関係性を大切に、援助に努めています。外出(お墓参り・ふるさと訪問)やお祭り訪問(実家の地域)や外泊の相談・支援も行われています。関係の把握と、ふれ合いの継続(会話を含む)を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者様同士の間人間関係を把握し、気の合う入居者様同士が楽しく過ごせるように、席を配慮したり、話題を提供している。また、トランプ、散歩などの趣味活動を通して入居者様同士が交流できたり、関わりが持てるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、加療にて退所の方には退所後も入院先にお見舞いに行ったり、グループ内や他施設に転居された入居者様に面会に伺っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との日頃の会話、表情、行動から思いを把握している。本人様より伺えない、わからない場合は家族の方からも希望や要望を伺いながら把握に努めている。	利用者の思いを知る営みを支持しています。会話や表情・仕草・動作の把握と変化への気づき、家族との交流を大切に、職員間での情報の共有を図りながら、協議・改善にも努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に伺ったり、入居者様との会話や、家族の方に伺い、生活歴、馴染んだもの、好きなもの、嫌いなもの等アセスメントに書き込んでいる。アセスメントは個人ファイルにはさんで誰もが見れるようにしている。把握した事は普段の会話などに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノート、連絡ノート、会議などを使用して職員間で入居者様の情報を共有している。また、職員会議で入居者様の心身の状態について話し合い状態の把握に努め、一人ひとりに合った過ごし方が出来る様にケアの統一を図っている。また、日々の観察にて入居者様の居心地の良い場所や、やりたい事などを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書を作成の際には、本人様、御家族様に施設の生活について要望を伺い、計画書に意見を取り入れている。毎月の会議にて目標の評価をしたり、課題、サービス内容が現在の状況と合っているか、計画書を継続して良いかなど見直しを行ったり、意見を出し合っている	3か月・6か月(長期)の見直しにおいて、職員会議の活用と担当者への聞き取りが行われています。介護の計画書に対する希望書(家族アンケート)により、策定への協力を得ています。工夫された書式からも、全職員間への計画の周知・実践に努める姿勢が伺えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づき、変化、会議で検討した対応の結果や声かけの結果など個人ファイルや申し送りノートに記載したり、申し送りの際に各職員へ伝えて情報の共有、ケアの統一を図っている。介護計画書の作成や見直しの際に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の方や、本人様より必要物品購入の希望があれば購入したり、遠方の御家族様より面会時に宿泊希望があり対応したり、地域の居宅ケアマネジャーより依頼があり、地域の方で、家族の外出の為に体験利用があり、受け入れを行った。しかし、入居者様全員の細かな要望については対応出来ないのが現状である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や本人様の希望により、市内の訪問美容師の方に来設していただき散髪を行って頂いている。佐伯消防署の方に協力していただき、避難訓練を行い、指導を受けるなど地域資源を活用している。地域資源の把握、活用はあまり出来ていないのが現状である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や御家族の希望を伺い、入所前から受診している主治医は変更しない対応を行っている。受診の際には、職員がケア車を送迎し受診に行き、主治医に体調を報告したり、相談などを行い。家族の付き添い希望があれば最近の体調をメモするなどして主治医との連携を図っている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医の受診継続と家族の通院介助を基本としていますが、緊急時や定期受診等は家族と職員で協力し、受診の際は、事業所での状態、病状等を伝え、主治医からも指導助言を頂き、家族にも連絡し情報の共有を図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務しており、入居者様の健康管理、体調変化など介護職より報告、相談、を行い、連携している。状態の変化に応じた支援を行っている。また、入居者様の医療面についての申し送りノートがあり、それを読む事で把握している。入居者様の体調の変化について報告、相談をし、連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した場合には、施設での様子、入院までの経過などを入院先の病院へお伝えしたり、退院の際には、病院の相談員の方より情報を頂き、連携を取っている。また、入院中もお見舞いに行ったり、相談員の方に話を聞き様子を伺っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	説明書にて重度化した場合、施設にてどのような対応が可能なのか説明を行っている。入所の際に重度化で当施設での対応が困難になった時の説明も行っている。重度化に希望書を作成し、本人様や、御家族様の希望を伺い、書面に残している	家族に重度化及び終末期に向けた事業所の対応を丁寧に説明し、希望書を作成しています。重度化した時点で主治医から病状等の説明があり、家族の意向を確認し、医療機関への入院や、隣接する老人ホームに入所等選択肢も示しながら、事業所で可能な限りの支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しているが、定期的に勉強会は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の協力をいただき、避難訓練を行い、指導をいただいている。近くの川が氾濫したと想定して隣接施設と合同で夜間水害訓練を行った。いつ発生するか分からない災害に対して今後も訓練を継続していく。地域の防災訓練に参加し、地域と少しずつ連携を深めているが、災害時更に地域との連携が取れるようにする	避難訓練は年2回(法人全体と事業所独自)行っています。訓練実施概要(マニュアル)の手順をもとに、昼夜を想定した訓練に真摯に取り組んでいます。地域の防災訓練に参加し、連携を図るとともに、地域の方に具体的な協力を依頼しています。	運営推進会議で消防署職員の協力を得て防災に関する講話等の研修を実施されたり、地域消防団との連携を図ることも期待されます。また、記録の重要性においても工夫が必要です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の理念でもある入居者様の一人ひとりの思いや気持ちを大切にしながら、人生の先輩として尊敬の念を持ち接するように心がけている。個人情報に関しても、取り扱いに注意し、個人ファイルなどは戸棚や引き出しに直して見えない様になっている。	利用者一人ひとりの生活歴に合わせ人格を尊重した対応に努めています。職員は認知症を理解し、接遇研修等で、声かけ、対応の仕方を勉強し自然体での関わりや、方言を交えた敬語での対応を大切に利用者の笑顔を引き出しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ入居者様が答えやすく、意思を出して頂ける様に声かけを行っている。希望を表すのに時間がかかっても、さりげなく待つなどして時間を取るようにしている。入居者様の状況に応じて二者択一にするなどの対応を行い希望を伺っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、入居者様の希望に応じて、起床の時間、食事の時間、など希望があれば、添う様に対応を行っている。時間帯など状況によっては希望に添えない時もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれが自分でできる方には自由にしていただいている。自力で行うのが困難な入居者様には服を選んでいただいたり、本人様の希望に添える様、質問しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等、数名の方には、野菜の皮むき、食後にはお盆吹き、食器洗いを行ってくださっている。食事の献立も、嫌い、苦手な食材は別のものに変更したり、リクエストを聞いての献立に取り入れている	調理の職員が3食キッチンで作っています。利用者の嗜好等もメニューに反映され、行事食、季節感のある旬の食事を提供されています。利用者の残存能力を活かして、職員と一緒にお手伝いをしています。	利用者同士や職員との関係作り等の点からも、職員も一緒に食事をされることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事摂取量を記入する表を作成し記録に残し、摂取量を把握している。水分摂取量が少ない場合などにはジュースなど好みのものを出して水分摂取量が増えるようにしている。また、体調の応じて食べやすいものの変更している。入居者様の食べる力を把握し、職員会議や、日々の中で話合っ入居者様にあつた大きさや柔らかさ、水分にトロミを付けるなどの対応をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。入居者様の状況に合わせて歯ブラシ、義歯洗浄剤を使用しながら口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、入居者様の個別の習慣を把握できるよう努めている。チェック表を用いて定期的の声掛けや誘導を行っている。尿取バット大きさも入居者様に合わせて変えている。なるべくトイレでの排泄が出来るようにトイレ内の手すりの位置を変化させたり、トイレにはイラスト入りの張り紙をしてわかりやすくしている	職員は利用者の排泄パターンと習慣を把握し、利用者一人ひとりに合わせたトイレでの排泄支援を行っています。失敗した時も他の利用者に気づかれないように配慮し、声かけも自尊心を傷つけない支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様に応じて水分や運動を促している。排泄チェック表にていつ排便があったか、何日排便があいているのか把握している。看護師と連携し、緩下剤などの指示をいただき、服用し、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯や入浴日が決まっており、午後や夜間など希望する時間帯に対応が出来ないのが現状。なるべく希望する日に入浴を行ったり、同性の職員の入浴介助を希望する際には職員が替わったり、入浴剤を活用して入浴が楽しめるようにしている	入浴は週2～3回を基本に午前中に対応し、毎日入ることも可能で、利用者の希望や体調に配慮し入浴支援を行っています。利用者の羞恥心や恐怖心、負担感を職員は理解し、同性介助等一人ひとりの意向を第一に支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や表情、希望などを考慮してゆっくり休息がとれるように自室のベッド、ホール内のソファなどに案内している。夜間は好きなテレビを見た後に寝るなど好きな時間に就寝が出来るように支援している。夜間なかなか寝られない時には温かい飲物を飲みながらおしゃべりをする等の対応を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、名前、日にち、何食後なのかを声に出し確認し、薬を本人様の手の中に入れて飲んだのを確認している。処方箋をまとめて薬の説明書のファイルを作成し確認ができるようにしている。また、薬が変更になった時や症状が出た時には申し送りノートに記載している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様や家族の方より伺った生活歴などを参考にして、施設内の仕事をさせていただいている。行っていただいた後は感謝の気持ちをお伝えしている。また、希望を伺って入居者様のやりたい事を行っていただいている。また、食べたいもの、好きな物を希望した時に食べて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見やドライブなど行事で苑外に行く事もあるが、回数は少ない。気候によって施設の庭に出たりする。外出の回数を増やしていく事が課題である	利用者の気分転換や健康維持のためにも、戸外に出かけることは重要だと考えています。天気の良い日は散歩や庭での日光浴、買い物、病院受診等外出の機会を作るよう個別支援に取り組んでいます。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、数人の方がお金を所持しているが、買い物をする事が殆どない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との電話を希望した場合に施設の電話より電話を行って会話をしている。家族の方よりお電話を頂き会話をしている。家族や知人の方に年賀状を書いた方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂ける様に飾り付けを行っている。施設内には温湿度計を設置し、基本の温湿度を書面にし壁に貼り、その温湿度に近づけるよう機器を使用し管理している。また、日光の当たり具合や不快な音などを出さないように入居者様の意見を参考に職員が管理を行っている	ゆったりとしたリビングから見える四季の風景や日常的に感じることのできる自然の風は、利用者が一番の癒しとなっています。ホールの壁面には季節感溢れる飾り付けや、台所から調理の音や匂い等五感を刺激しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様が一緒に過ごしたり、ひとりでゆっくり過ごせるよう、施設内の数か所に共用のソファや椅子などを設置している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際には、今まで使い慣れた布団や食器類いつも持っていた物などを持参していただく様をお願いし、持って来ていただいている。全員ではないが、入居者様の気に入った物や家族からのプレゼント、家族との写真など貼ったりして居心地の良いお部屋作りをしている方もいる。	家族には見学時に馴染みの物を持ち込む大切さを説明し、イスや机、人形、家族写真、位牌等を置かれている利用者がいます。部屋の配置(ベッドの向き)も可能な限り希望に添い思い思いの居室作りを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー手すりを設置し、入居者様お一人でも施設内の移動がしやすいようにしている。各部屋は色で分けられており、希望があればドアに名前を張り付ける対応をしている。また、トイレのドアなどに絵付きのトイレの張り紙をして場所を印している		